

教育研究業績書

2024年10月22日

所属：看護学科

資格：講師

氏名：松井 菜摘

研究分野	研究内容のキーワード
公衆衛生看護学	高齢初産婦の妊娠期・育児期における体験、産後の女性における抑うつ症状に対する気づきと対処行動、乳幼児を持つ父母のしつけの認識と実際
学位	最終学歴
博士（看護学）	武庫川女子大学大学院看護学研究科博士後期課程修了

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1. 大学院生の研究指導	2022年4月～現在に至る	本学看護学研究科において、2022年度は修士課程の大学院生1名の副指導、2023年度は修士課程の大学院生3名の副指導、2024年度は修士課程の大学院生1名の主指導、3名の副指導を担当している。
2. 保健指導・健康教育のスキルを習得するためのグループワーク・ロールプレイング	2017年4月～現在に至る	本学看護学研究科専門教育科目（公衆衛生看護技術特論・ハイリスク事例支援特論Ⅰ）で、乳幼児健康診査における問診と保健指導、健康教育の展開方法を学習する場面で実施している。 教材として、乳幼児健康診査における問診と保健指導では、発達の遅れが疑われる子どもと家族の一事例について健診ごとの状況設定を作成し、健康教育では、①子育てひろばに参加する地域在住の乳幼児をもつ家庭、②高齢者の介護予防体操グループの事例を作成している。 学生は、乳幼児健康診査の問診・保健指導時の情報収集や面接技術について、個々に作成した保健指導計画をグループでディスカッションし、対象者役と保健師役に分かれてロールプレイングを行う。また、健康教育では、設定した事例とテーマに沿って、グループで情報を収集し、対象集団の特性把握をふまえて、健康教育指導案および教育媒体、シナリオの作成を行い、予演会を経て、学内での発表会を実施している。
3. 地域における保健活動の展開方法をより深く理解するための問題解決型学習を用いた実習指導	2017年4月～現在に至る	本学看護学研究科専門教育科目（公衆衛生看護活動展開実習・公衆衛生看護コミュニティ展開実習）において、兵庫県内の都市部と山間部を対象地域として、地区視診やインタビュー、二次資料の分析等からの情報収集の結果を活用し、学生がグループで地域の健康課題を抽出し、その成果を実習施設で発表する。さらに、実習期間の中で現場の保健師や関係機関、地域住民との対話を通して健康課題の解決方法を検討していく。 教育準備として、フィールドワークの対象地域の設定や学生主体のインタビュー調査が実施できるようなインタビュー対象者の選定、学生が抽出した健康課題に沿った実習スケジュールの調整を行っている。
4. 研修等での学びを生かして、授業や実習内容を工夫し、またその振り返りを行うことで改善へとつなげる	2017年4月～現在に至る	就任1年目から、学内での新任教員研修やFD研修、実習先でのウォーミングアップ研修、また全国保健師教育機関協議会における公衆衛生看護学を教授する教員〈レベルⅠ〉研修等を受講し、自身の教育の質を向上させるため教育能力の向上に努めている。 また、学生の学習状況をもとに、授業や実習内容の改善に向け、同一科目を担当する教員で会議を持ち、指導方法の検討を行っている。
2 作成した教科書、教材		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 新規採用保健師に対する指導	2016年5月～2017年3月	新規採用保健師へプリセプターの保健師として日々のケースワークについての助言や各事業における保健師

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
2. 子育てサロンや児童館、保育所での講話	2013年7月～2017年3月	の役割および対応方法の指導、月1回のOJTミーティング等を行った。 母子保健担当の保健師として、民生・児童委員や保育所等の関係機関と連携し、地域で生活する乳幼児の母等を対象に、季節ごとの過ごし方やその季節に多い感染症、生活リズムの整え方等の内容を中心に、健康教育を実施した。
3. 大学や専門学校から受け入れた保健師および看護師、助産師の実習生に対する指導	2012年5月～2017年3月	保健師および看護師、助産師の実習生への実習指導担当として、事前の実習内容打ち合わせ・実習スケジュールの企画から保健事業参加・家庭訪問・健康教育の指導、実習記録の指導、学生カンファレンスの参加等、全体を通して実習指導を担当した。
4. 中学校および高校での出前授業や講演	2011年11月～2017年3月	母子保健担当の保健師として、中高生に対して、妊娠・出産・育児に関する知識の普及のための思春期教育や、たばこの害について学ぶ防煙教室を、学校や他職種等と連携して実施した。
5. 保健師の自主勉強会	2011年7月～2017年3月	市の保健師全員で構成する会にて定期的に勉強会を実施し、各区での地域特性に応じた実践の共有や行政における専門職の役割等についての情報交換や、医師や他部署の職員の講義により業務に必要な知識・技術の習得を行った。
6. こんにちは赤ちゃん事業等の各事業における事例検討会	2011年7月～2017年3月	母子保健分野および精神保健分野の事業において適切な時期での実務者間での事例検討に加え、それぞれ年1回の関係職種間の事例検討会を開催し、対応困難事例等について検討することで対象者のQOL向上の支援や知識・技術の向上を目指した。
7. 学部生に対する卒業研究の指導	2010年4月～2010年8月	博士前期課程の学生時に同じ研究室に配属となった学部生の卒業研究の研究計画の立案からアンケートの作成および配布、回収、さらに分析方法の指導を行った。
8. 看護学実習におけるティーチングアシスタント	2009年12月、2010年7月	小児看護学実習を担当し、実習病棟にて学生の看護実践や実習記録の指導、実習内容に関する助言を行った。
4 その他		
1. 保健師国家試験に向けた模試・対策講座等による支援	2018年4月～現在に至る	保健師国家試験の合格を目指し、看護学研究保健師コースの学生を対象として、1年次から定期的に模試や個別面談等により知識の習得状況を確認し、それに応じた学習支援を行うとともに、加えて国家試験の直前には、分野の他の教員とともにオリジナルの対策講座を実施している。
2. 学部生による高齢者継続家庭訪問ボランティア活動の支援	2018年1月～2020年3月	看護学部の学部生のうち、ボランティア活動を希望する学生に対する活動の支援を行っている。対象となる高齢者1人につき学生3～4人を1グループとし、家庭訪問1回につき学生2人ずつのローテーションを組み、月1～2回の家庭訪問を実施する。 その中で、対象となる参加学生の募集および学生へのオリエンテーションの実施、高齢者への活動内容の説明と初回訪問日時の調整、初回訪問時の同行、地域包括支援センターとの連携、また2回目の家庭訪問以降の学生のサポートを行っている。
3. 地理情報システムの活用トレーニング基礎編修了	2017年10月20日	財団法人地理情報システム学会GIS資格認定協会主催の教育認定を受けたArc GIS for Desktop II 基礎編（コース番号：ET02、教育時間数：19.5時間）の受講を修了した。 武庫川女子大学大学院看護学研究科の公衆衛生看護学演習ⅡではGISを用いた地域診断を実践している。学生への操作指導に加え、データを可視化することで、分かりやすく広く住民に伝えられることを教授するために役立っている。
4. 地理情報システムの活用トレーニング入門編修了	2017年9月22日	財団法人地理情報システム学会GIS資格認定協会主催の

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
4 その他		
5. 全国保健師教育機関協議会 公衆衛生看護学を教授する教員〈レベルⅠ〉研修修了	2017年8月～2019年3月	<p>教育認定を受けたArc GIS for Desktop I 入門編（コース番号：ET01、教育時間数：13時間）の受講を修了した。</p> <p>武庫川女子大学大学院看護学研究科の公衆衛生看護学演習ⅡではGISを用いた地域診断を実践している。学生への操作指導に加え、データを可視化することで、分かりやすく広く住民に伝えられることを教授するために役立っている。</p> <p>公衆衛生看護学における効果的な実習および授業を展開する能力を修得するため、全国保健師教育機関協議会の公衆衛生学を教授する教員〈レベルⅠ〉研修を受講し、修了した。</p> <p>この教育レベルの教員が身に付けるべきである、実習および授業展開の基礎的な知識を理解し、実習指導および授業計画の立案・実施・評価について学び、学生への実習指導および授業展開の方法を検討し、実践する際に活用することができている。</p>

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1. 保健師免許	2009年5月～現在に至る	
2. 看護師免許	2009年5月～現在に至る	
3. 精神保健福祉士資格	2009年4月～現在に至る	
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 西宮市健康ポイント事業の効果分析 助言者	2022年9月～現在に至る	2021年度から開始された西宮市健康ポイント事業の評価において、効果の分析方法や成果の公表に関する助言を行っている。
2. 大阪市旭区保健事業に関する事業評価 助言者	2022年4月～現在に至る	大阪市旭区保健福祉センターから依頼を受け、保健事業に関する事業評価の助言者として、会議等に出席している。事業評価では、アンケート調査等の集計や分析を行い、その結果を次年度以降の事業運営に反映するとともに、毎年、保健師と共同で公衆衛生看護学に関連した学会での発表を行っている。
3. 西宮市保健所業務支援プロジェクト メンバー	2021年5月～2022年8月	新型コロナウイルス感染拡大にかかる保健所の業務負担を軽減するために立ち上げた、西宮市保健所業務支援プロジェクトにメンバーとして参加し、応援に入る教員のシフト調整を行った。また、自らも積極的に出務し、積極的疫学調査や自宅療養者の体調確認等の業務を行った。
4. 兵庫県看護協会認定看護管理者教育課程「ファーストレベル」 講師	2020年10月～現在に至る	2020年度、および2023年度から現在に至るまで、兵庫県看護協会が実施している認定看護管理者教育課程「ファーストレベル」において、講師としてヘルスケアシステム論Ⅰのうち社会保障制度概論に関する講義を担当している。
5. 大阪府堺市健康福祉局保健福祉施設等施設整備審査会 委員	2020年5月～2021年3月	大阪府堺市健康福祉局保健福祉施設等施設整備審査会の委員として、特別養護老人ホームや障害者施設等の社会福祉施設、介護老人保健施設等の施設整備にかかる補助金の対象となる施設及び事業者の選定に際して行われる審査に携わった。
6. 大阪府堺市地域密着型サービス等事業者選定等審査会 委員	2020年5月～2021年3月	大阪府堺市地域密着型サービス等事業者選定等審査会の委員として、介護保険サービスの事業者の選定および補助金の交付についての審議に携わった。
7. 大阪府茨木市介護認定審査会 委員	2020年4月～現在に至る	大阪府茨木市介護認定審査会の委員として、要介護認定の二次判定に携わっている。
8. 西宮交流フェスティバルでの健康相談	2019年3月	西宮交流フェスティバルにおいて、健康相談コーナーの担当して携わった。
9. 兵庫県保健師現任教育計画作成及びプリセプター研	2018年6月～2020年10月	平成30年度、令和元年度、令和2年度の兵庫県保健師現

職務上の実績に関する事項				
事項	年月日		概要	
3 実務の経験を有する者についての特記事項				
修会 ファシリテーター				
10. 西宮市民健康フォーラム 骨健康度測定担当	2018年6月			任教育計画作成及びプリセプター研修会において、ファシリテーターを担当した。 西宮市民健康フォーラムにおいて、骨健康度測定担当として携わった。
11. 寝屋川市保健師人材育成事業 オブザーバー	2018年5月～2021年3月			寝屋川市保健師人材育成事業のオブザーバーとして、ワーキングや研修会などに参加し、人材育成マニュアル作成のためのキャリアラダーの検討や現場の保健師が参加する研修会におけるグループワークの実施に携わっている。
12. サンケイリビング新聞社主催 「ミセスの1日大学生」	2018年3月			サンケイリビング新聞社主催 「ミセスの1日大学生」において、運営担当として事前準備から当日の進行までの全体に携わった。
13. 兵庫県西宮市 秋の公聴会	2017年11月			兵庫県西宮市が市民を対象に行った秋の公聴会において、ファシリテーターとして当日の進行に携わった。
14. 兵庫県看護協会阪神南支部拠点事業 武庫川女子大学看護学部まちの保健室 プロジェクトメンバー	2017年4月～現在に至る			兵庫県看護協会阪神南支部拠点事業である武庫川女子大学看護学部まちの保健室にプロジェクトメンバーの企画運営担当として、事業の立ち上げ段階から事業の企画や毎回の運営に携わっている。また、実施回ごとに相談担当等として従事し、来室される住民の方々への対応を行っている。
4 その他				
1. 全国保健師教育機関協議会 (標準的) 大学院カリキュラムモデル検討ワーキング メンバー	2019年10月～2020年2月			全国保健師教育機関協議会の保健師基礎教育検討会におけるワーキングのメンバーとして、大学院カリキュラムモデルの検討を行った。
2. 全国保健師教育機関協議会 教育体制委員会 委員	2019年6月～2021年5月			全国保健師教育機関協議会教育体制委員会の委員として、保健師教育課程選択制の効果と課題を明確にし、看護師教育課程に上乘せする活動を推進するとともに保健師教育課程の質を保証する評価基準について検討し、会員校の教育体制の整備を後押しするための活動を行った。
3. 日本看護研究学会第31 回近畿・北陸地方会学術集会 実行委員	2018年3月			日本看護研究学会第31 回近畿・北陸地方会学術集会において、実行委員として学会運営に携わった。
4. 第6回日本公衆衛生看護学会 実行委員	2018年1月			第6回日本公衆衛生看護学会において、実行委員として学会運営に携わった。
研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1. 公衆衛生看護学 第4版	共	2024年発行予定	中央法規	本人担当部分：第1部第3章1-1・4 編集者：上野昌江、和泉京子
2. 公衆衛生看護学 第3版	共	2021年12月	中央法規	本人担当部分：第1部第3章1-1・4 編集者：上野昌江、和泉京子 共著者名：上野昌江、和泉京子、吉岡京子、松井菜摘、田口敦子、斉藤恵美子、森田理江、枝澤真紀、三橋美和、吉田裕人、中原洋子、海原律子、足立安正、平野美千代、都築千景、大川聡子、小路浩子、金谷志子、根来佐由美、岡野明美、吉田純子、巽あさみ、安本理沙、郷良淳子、武笠佑紀、新家静、川井太加子、森下安子、佐伯和子、蔭山正子
2 学位論文				
1. 高齢初産婦の育児不安および産後うつとその関連要因	単	2021年3月	武庫川女子大学大学院看護学研究科博士論文	高齢初産婦における妊娠期および育児期の体験をふまえて、産後4か月時の育児不安や産後うつとその関連要因を明らかにすることを目的とした。 予備研究として、出産時に40歳以上であった初産婦5名に半構造化面接調査を実施し、質的記述的に分析した結果をふまえて、本研究ではA市の4か月児健康診査の対象となる児の母親を対象に、郵送による自記式質問紙調査を行った。結果、育児不安と産後うつの傾向について、年齢による有意な差は見られなかった。35歳以上の母親は、不妊治療経験がある、義父母の定期的な協力が無い、自分のペースで生活ができない、体力的に辛いと感じることが多い者の

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2 学位論文				
2. 幼児後期の子どもを持つ両親における養育スタイルとしつけ (修士論文)	単	2011年3月	大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻	割合が、35歳未満よりも有意に多かった。35歳以上初産の母親の育児不安が高いことには、睡眠時間が短い、睡眠による休養がとれていない、想像以上の育児の大変さが、EPDS9点以上であることには、特性的自己効力感の低さが関連していた。高齢初産婦では、産後の健康状態、育児生活の受容、特性的自己効力感が育児不安や産後うつにつながりやすい要因であることが示唆された。 地域で生活する幼児後期の子どもを持つ親を対象に質問紙調査を行い、両親の養育態度やしつけへの関わりの実態と関連、またそれらに影響を与える背景要因について分析した。子どもの数やその年齢、母の養育態度により父の育児参加が異なること、親自身の被養育体験が現在のしつけに影響を与えること、さらに父母の育児に対する考え方や行動はお互いに影響を及ぼしあっている可能性が示唆された。
3 学術論文				
1. 保育所及び認定こども園等で勤務する看護職の保育保健活動 (査読付)	共	2025年1月 (掲載予定)	母性衛生, 65巻4号, 頁未定	保育所及び認定こども園等に勤務する看護職の保育保健活動の実態を明らかにするために、全国保育園保健師看護師連絡会を対象として郵送法による無記名自記式質問紙調査を行った。保育保健活動の担当割合は、気になる子や障がい児、虐待待児への対応、その保護者への関わりや関係機関との連携に関する項目において低いことや担当していても自信がない者も一定数いること等が明らかとなった。一人配置が多く、職場で同じ看護職から学ぶことが難しいことが推察される中で研修への参加経験がない者もあり、活動内容に応じて研修が受けられる体制づくりや母子保健との連携が重要であることが示唆された。 本人担当部分：共同研究につき、抽出・ページ特定不可能 共同発表者：松井 菜摘、和泉 京子、岩佐 真也
2. 40歳以上で初めて出産した女性の妊娠期・育児期の体験 (査読付)	共	2021年4月	母性衛生, 62巻1号, pp.126-134	40歳以上で初めて出産した女性の妊娠期・育児期の体験を明らかにするため、出産時に40歳以上の初産婦5名を対象に、訪問による半構造化面接調査を実施し、データを質的記述的に分析した。妊娠期は【困難や不安を乗り越えて得た喜びや期待】【解消されない不安といかなる状況でも育てる覚悟】【妊娠前のように思い通りにいかないことへの葛藤】の3つのカテゴリー、育児期は【待ち望んでいた児と過ごせることへの喜び】【理想と現実の育児との間で揺れ動く思い】【休みなく続く育児の中で集積する苦痛や疲労感】の3つのカテゴリーが抽出された。40歳以上で初めて出産した女性は、妊娠期から育児期を通して、喜びや期待とともに不安や葛藤、苦痛を抱える可能性があることを考慮して適切な時期に関わり、具体的な支援を検討する必要があることが示唆された。 本人担当部分：共同研究につき、抽出・ページ特定不可能 共同発表者：松井 菜摘、和泉 京子、岩佐 真也
3. 本学看護学部「まちの保健室」に参加する地域住民の健康状態と健康行動 (査読付)	共	2021年3月	武庫川女子大学看護学ジャーナル, Vol.6, pp.79-89	本学看護学部「まちの保健室」に参加する地域住民の基本属性や参加状況別にみた健康状態および健康行動を明らかにするため、2019年7月と8月の参加者を対象に無記名自記式質問紙調査を行った。基本属性、「まちの保健室」参加状況と、健康状態や健康行動の関係について、Pearsonの χ^2 検定またはFisherの正確確率検定を用いて分析を行った。参加者の健康状態や健康行動は参加回数や目的等により異なり、健康指標の測定を目的に参加した人は健康のために気をつけていることがある割合やがん検診の受診率が低いこと等が明らかとなった。「まちの保健室」は住民の生活の場である地域で実施しており、自ら相談の場や医療機関、健診や検診にアクセスできない人にもアプローチできる場となっている。より多くの人が関心を持てるよう健康指標の測定等を行い、その後の健康相談により自身の健康に目を向けられる機会とする必要性が示唆された。 本人担当部分：共同研究につき、抽出・ページ特定不可能 (アンケート回収後の分析および論文作成) 共同発表者：松井 菜摘、阪上 由美、新田 紀枝、田野 晴子、松山 美恵子、和泉 京子、寶田 穂、徳重 あつ子、宮嶋 正子、久山 かおる、早川 りか、谷澤 陽子、阿曾 洋子
4. 4か月児をもつ35歳以上	単	2021年3月	武庫川女子大学看	4か月児をもつ35歳以上の母親の育児不安とその関連要因を、35歳未

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
上の母親における育児不安とその関連要因－35歳未満の母親との比較－（査読付）			護学ジャーナル，Vol.6，pp.23-33	満の母親と比較し明らかにするため、A市の4か月児健康診査対象児の母親977名に質問紙調査を行った。年齢2区分別に、育児不安を従属変数とし、基本属性、健康状態、サポート、妊娠期・育児期の体験、育児支援チェックリスト、赤ちゃんへの気持ち質問票の各項目、エジンバラ産後うつ病質問票（EPDS）得点、特性的自己効力感について育児不安との単変量解析で有意であった項目を独立変数としたロジスティック回帰分析を行った。結果、35歳以上の母親の育児不安には、初産経産の別や睡眠による休養、心理的・精神的な問題での専門職への相談経験、赤ちゃんへの気持ち質問票の2項目が関連していた。35歳未満と比較すると、35歳以上の母親では特に母親自身の睡眠状況や精神的な健康状態が育児不安と関係しており、これを考慮した上で支援を行う必要があることが示された。 本人担当部分：共同研究につき、抽出・ページ特定不可能 共同発表者：松井 菜摘、和泉 京子、金谷 志子、岩佐 真也
5. 幼児後期の子どもを持つ父母におけるしつけへの実際の関わり（査読付）	共	2012年3月	第42回日本看護学会論文集，地域看護，pp.96-99	幼児後期の子どもを持つ親のしつけに対する実際の関わりと、その属性および相談状況による違いを明らかにするため、地域で生活する幼児後期の子どもを持つ親を対象として質問紙調査を行った。しつけへの実際の関わりは「決まりを守ること」「人と関わること」「規則正しく生活すること」「学ぶこと」の4因子構成が妥当であり、父のしつけへの実際の関わりには子どもの年齢が、母のしつけへの実際の関わりには母の年齢、就業の有無および子どもの年齢が関連していることが示唆された。 本人担当部分：共同研究につき、抽出・ページ特定不可能（アンケート回収後の分析および論文作成） 共同発表者：山本（松井）菜摘、加藤多樹郎、藤原千恵子
6. 病棟の違いによる入院児のきょうだい支援に対する看護師の認識と実践の差異（査読付）	共	2010年3月	第40回日本看護学会論文集，小児看護，pp.93-95	小児が入院する病棟に勤務する看護師を対象に、病棟により入院児のきょうだい支援に対する認識と実践に差異があるかを分析した。きょうだい支援に関する情報収集や働きかけは小児病棟と混合病棟のどちらでも高く認識して実践されていること、院内規則や設備によってきょうだい支援の違いが生じる可能性があることが示唆された。 本人担当部分：共同研究につき、抽出・ページ特定不可能 共著者名：武内紗千、河上智香、新家一輝、倉橋理香、泉美香、山田晃子、山本（松井）菜摘、石井京子、藤原千恵子
7. 小児の入院と母親の付き添いがきょうだいにおよぼす影響～きょうだいの情緒と行動の問題の程度と前向きな変化・成長の関係～（査読付）	共	2010年3月	第40回日本看護学会論文集，小児看護，pp.87-89	母親の属性および小児の入院と母親の付き添いによって生じるきょうだいの情緒・行動の問題の程度と、前向きな変化・成長の関係を明らかにすることを目的として、小児の入院に終日付き添っている母親を対象に質問紙調査を行った。母親の年齢や不安の程度、きょうだいの年齢や性別に配慮したきょうだい支援の必要性が示された。 本人担当部分：共同研究につき、抽出・ページ特定不可能 共著者名：倉橋理香、新家一輝、泉美香、山田晃子、山本（松井）菜摘、武内紗千、河上智香、石井京子、藤原千恵子
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
2. 学会発表				
1. 高齢者対象の西宮市健康ポイント事業が継続参加者の運動習慣に及ぼす効果	共	2024年10月（予定）	第83回日本公衆衛生学会総会（札幌）	高齢者対象の西宮市健康ポイント事業の継続参加者の運動習慣の変化を事業前後で比較し、事業の効果評価を実施することを目的とし、事業に2年間事業に継続参加した者が、事業前と事業2年目終了後に回答した質問紙調査の結果を分析した。事業の取り組み状況は、日常の活動量のアップ、外出機会の増加、歩数・体組成の変化の確認の順に多かった。事業の前後変化は、事業前に比べ事業後は、後期高齢者の質問票合計点の平均が低く、一日の歩行時間が長く、定期的な運動の頻度が高く、有意差があった。インセンティブ付き保健事業を通して、高齢者は身体活動量の増加を意識し、定期的に運動する習慣ができ、フレイル予防の可能性があると示唆された。 本人担当部分：共同研究につき、抽出・ページ特定不可能

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
2. 通いの場に参加する高齢者の特徴（第3報）フレイルの関連要因	共	2024年10月（予定）	第83回日本公衆衛生学会総会（札幌）	<p>共同発表者名：金谷志子、和泉京子、松井菜摘、枝澤真紀、小坂かおり、向井沙織、福田典子</p> <p>通いの場に参加する高齢者の特徴を実施形態別に明らかにすることを目的とし、大阪市A区で実施されている通いの場に参加する高齢者を対象として無記名自記式質問紙調査を行った。介護予防体操に参加している者のうち、フレイル・プレフレイル状態にある者が8割と多いことから、フレイルの者および予備軍の介護予防の場となっていることが明らかになった。また、独居であること、疾患があること、身体を動かす運動や活動を頻繁にはしていないことがフレイル状態に関連しており、体操の場だけでなく自宅などでも意欲的に体を動かす運動や活動を促すことがフレイル予防につながる可能性がある。</p> <p>本人担当部分：共同研究につき、抽出・ページ特定不可能</p>
3. 通いの場に参加する高齢者の特徴（第2報）介護予防行動の関連要因	共	2024年10月（予定）	第83回日本公衆衛生学会総会（札幌）	<p>共同発表者名：尾原ゆり子、金坂広美、岡田七海、枝澤真紀、松井菜摘、和泉京子、金谷志子</p> <p>通いの場に参加する高齢者における介護予防行動の関連を明らかにすることを目的とし、大阪市A区で実施されている通いの場に参加する高齢者を対象として無記名自記式質問紙調査を行った。最終学歴が高卒以上、暮らし向きにゆとりがある者は、介護予防行動に取り組んでいること、生きがいを感じている者や近所付き合いが多く親しくつきあっていること、相談相手に友人・専門職がいることが介護予防行動を促進する要因となることが示唆された。</p> <p>本人担当部分：共同研究につき、抽出・ページ特定不可能</p>
4. 通いの場に参加する高齢者の特徴（第1報）実施形態別の実態	共	2024年10月（予定）	第83回日本公衆衛生学会総会（札幌）	<p>共同発表者名：岡田七海、金坂広美、尾原ゆり子、枝澤真紀、松井菜摘、和泉京子、金谷志子</p> <p>通いの場に参加する高齢者の特徴を実施形態別に明らかにすることを目的とし、大阪市A区で実施されている通いの場に参加する高齢者を対象とし、無記名自記式質問紙調査を行った。実施形態ごとに参加者の背景は異なるものの、健康状態や取り組んでいる介護予防行動の数に違いは見られなかった。これらの通いの場は、様々な背景を持つ人が参加し、介護予防に取り組むことができる場となっていることが示唆された。</p> <p>本人担当部分：共同研究につき、抽出・ページ特定不可能</p>
5. 母子健康手帳交付時に来所した父親の来所動機と育児参加意欲	共	2024年1月	第12回日本公衆衛生看護学会学術集会（北九州）	<p>共同発表者名：金坂広美、尾原ゆり子、岡田七海、枝澤真紀、松井菜摘、和泉京子、金谷志子</p> <p>母子健康手帳交付時に来所した父親の来所動機と育児参加意欲を明らかにし、子育て世帯への支援のあり方を検討するため、無記名自記式質問紙調査を行った。結果、母子健康手帳発行時に来所した父親は育児に積極的に参加したいという気持ちがあること、第1子の父親は妊娠・育児の情報を知りたいという理由で来所している人が多いことが示された。</p> <p>本人担当部分：共同研究につき、抽出・ページ特定不可能</p>
6. 高齢者対象の西宮市健康ポイント事業の事前評価（第2報）運動習慣と準備状況の特徴	共	2023年11月	第82回日本公衆衛生学会総会（つくば）	<p>共同発表者名：上野輝実、尾原ゆり子、岡田七海、松井菜摘、和泉京子、枝澤真紀</p> <p>西宮市では2021年度から介護予防および健康寿命の延伸を目的とし、70歳以上の高齢者を対象に活動量計・スマートフォンアプリを使用した健康ポイント事業に取り組んでおり、今回は参加者の運動習慣と準備状況を評価するため、事業前に実施した自記式質問紙調査の分析を行った。参加者は、運動習慣がない者が半数を占め、また運動に関する関心を持ち、運動習慣の改善に取り組む意向を示す者が半数であり、本事業が予防行動の契機となることが期待される。</p> <p>本人担当部分：共同研究につき、抽出・ページ特定不可能</p>
7. 高齢者対象の西宮市健康ポイント事業の事前評価（第1報）事業参加者の健康状態	共	2023年11月	第82回日本公衆衛生学会総会（つくば）	<p>共同発表者名：金谷志子、小坂かおり、向井沙織、吉本果、福田典子、和泉京子、松井菜摘、枝澤真紀</p> <p>西宮市では2021年度から介護予防および健康寿命の延伸を目的とし、70歳以上の高齢者を対象に活動量計・スマートフォンアプリを使用した健康ポイント事業に取り組んでおり、参加者の健康状態を評価するため、事業前に実施した自記式質問紙調査の分析を行っ</p>

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
の特徴				<p>た。インセンティブ付き保健事業の参加者は他の高齢者保健事業と比べ、男性の参加割合が高く、男性の保健事業参加の契機となることが考えられる。</p> <p>本人担当部分：共同研究につき、抽出・ページ特定不可能 共同発表者名：小坂かおり、吉本果、向井沙織、福田典子、和泉京子、金谷志子、松井菜摘、枝澤真紀</p>
8. 在宅医療・介護連携推進事業を活用したコロナ禍の命を守る取り組み	共	2022年12月	第11回日本公衆衛生看護学会学術集会（仙台）	<p>在宅療養者を適切な医療に繋げ重症化を防ぎ、命を守ることを目的とし、在宅医療・介護連携推進事業の仕組みを活用した大阪市の「旭区コロナ地域支えあい訪問事業」の事業化について、在宅療養者を早期に適切な医療に繋ぎ、重症化防止に寄与し命を救う活動ができたこと等の報告を行った。</p> <p>本人担当部分：共同研究につき、抽出・ページ特定不可能 共同発表者名：尾原ゆり子、上野輝実、和泉京子、枝澤真紀、松井菜摘</p>
9. 母子健康手帳交付時のペア来所と産後における父の育児参加や母の育児状況・健康状態との関連	共	2022年12月	第11回日本公衆衛生看護学会学術集会（仙台）	<p>子育て世帯と関わる最初の機会である母子健康手帳交付時の父の同行と、産後における父の育児参加や母の育児状況・健康状態の関連を明らかにするため、研究を行った。母子健康手帳交付時に同行していても、父は必ずしも産後の育児に十分参加しているわけではないこと、特に高齢初産婦は、父が同行している人の方が産後のネガティブな感情が起りやすいことが明らかになった。</p> <p>本人担当部分：共同研究につき、抽出・ページ特定不可能 共同発表者名：上野輝実、尾原ゆり子、松井菜摘、和泉京子、枝澤真紀</p>
10. 家族介護者の健康支援家庭訪問の評価 第2報 保健師による健康支援の短期評価	共	2022年8月	第25回地域看護学会学術集会（富山）	<p>家族介護者へ健康支援の家庭訪問を実施し、その評価をすることより、家族介護者への生活習慣病予防に向けた支援のあり方を検討するため、自記式質問紙調査にて家庭訪問の承諾があった者を対象とし、家庭訪問にて健康支援と面接調査を実施した。訪問による健康支援により体調不良の改善や健診受診行動、生活習慣の改善に一定の効果があったことが明らかになった。</p> <p>本人担当部分：共同研究につき、抽出・ページ特定不可能 共同発表者名：金谷志子、和泉京子、松井菜摘、枝澤真紀</p>
11. 家族介護者の健康支援家庭訪問の評価 第1報 家族介護者の健康状態と健康行動	共	2022年8月	第25回地域看護学会学術集会（富山）	<p>家族介護者の健康状態と健康行動を明らかにし、家族介護者への生活習慣病予防支援のあり方を検討するため、自記式質問紙調査を実施した。健診受診や生活習慣全般にわたり支援が必要な者が多く、要介護者のみならず家族介護者への健康支援を行うことの重要性が示唆された。</p> <p>本人担当部分：共同研究につき、抽出・ページ特定不可能 共同発表者名：和泉京子、金谷志子、松井菜摘、枝澤真紀</p>
12. A大学看護学部「まちの保健室」の利用状況および評価	共	2020年11月	第 51 回日本看護学会ヘルスプロモーション、p.70	<p>「まちの保健室」の利用状況および評価を明らかにするため、まちの保健室参加者を対象として、無記名自記式質問紙調査を実施した。健康指標の測定を目的に「まちの保健室」に参加し、健康相談等を利用することにより、参加者が自身の健康に目を向ける機会となることが示唆された。また、参加者からその周囲の人々へと広がり、地域全体の健康意識が高まるよう活動を継続していく必要があると考える。</p> <p>本人担当部分：共同研究につき、抽出・ページ特定不可能 共同発表者名：松井 菜摘、阪上 由美、新田 紀枝、田野 晴子、桧山 美恵子、和泉 京子、寶田 穂、徳重 あつ子、宮嶋 正子、久山 かおる、早川 りか、谷澤 陽子、阿曾 洋子</p>
13. Child-Rearing Experiences of Women Who Gave Birth for the First Time in Their 40s	共	2020年2月	The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science (Osaka)	<p>40歳以上で初めて出産した産婦の育児期の体験を明らかにすることを目的として、研究を行った。40歳以上で初めて出産した産婦は、喜びや不安を抱えながら過ごした妊娠期を経て、児との生活に喜びを感じる一方、理想と実際の育児との間で揺れ動きながらも、24時間休みなく続く育児により、痛みや疲労も抱えていることが明らかとなった。</p> <p>本人担当部分：共同研究につき、抽出・ページ特定不可能 共同発表者名：Natsumi Matsui, Kyoko Izumi, Maya Iwasa</p>
14. 40歳以上で初めて出産した産婦の妊娠期	共	2019年10月	第78回日本公衆衛生学会総会（高	<p>40歳以上で初めて出産した産婦の妊娠期における心情を明らかにすることを目的として研究を行った。</p>

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
における心情			知)	40歳以上で初めて出産した産婦は妊娠期において、妊娠への喜びと期待、周囲への感謝を持ち、同時に妊娠による身体的および精神的な負担と妊娠や出産に関する不安や葛藤を抱えながら過ごしていることが明らかになった。
15. 市町村保健師の健康の社会格差の視点を包含した健康指標の「見える化」の現状	共	2019年10月	第78回日本公衆衛生学会総会（高知）	本人担当部分：共同研究につき、抽出・ページ特定不可能 共同発表者名：松井 菜摘、和泉 京子、岩佐 真也 市町村や特別区の保健師の、所得や地域など社会背景ごとの健康指標の整理・活用の実態、また、それらと保健師経験年数との関連を明らかにすることを目的として研究を行った。 既存データは活用できているが、健康の社会格差の視点を包含した健康指標の「見える化」のためのデータ整理やその活用ができている者は著しく少なく、それらは経験年数により違いがあることが明らかとなった。
16. 家族介護者の健康状態と生活習慣病予防の健康行動	共	2019年10月	第78回日本公衆衛生学会総会（高知）	本人担当部分：共同研究につき、抽出・ページ特定不可能 共同発表者：岩佐 真也、和泉 京子、松井 菜摘 隠れた患者（the hidden patients）と言われる家族介護者の健康状態と生活習慣病予防の健康行動を明らかにし、家族介護者への生活習慣病予防に向けた支援のあり方を検討することを目的に研究を行った。 家族介護者には健診受診や生活習慣病の必要な治療を受けていない者、うつ傾向、閉じこもり傾向などの者などが少なからずいることが明らかになった。多くの時間を介護に費やし、自らの健康に目を向ける余裕がないことが推測される。また、世帯所得や介護時間により違いがみられることより、家族介護者の経済状況や介護の状況をふまえた支援が必要であると考え。
17. 継続して家庭訪問で関わる意味を重視した修士課程での実習1報：乳児・高齢者への継続家庭訪問実習の概要	共	2019年8月	日本地域看護学会第22回学術集会	本人担当部分：共同研究につき、抽出・ページ特定不可能 共同発表者：和泉 京子、尾久 聖子、松井 菜摘、岩佐 真也、田野 晴子 本学大学院看護学研究保健師コースで実施している、2年間の実習の全体像と1年次の継続家庭訪問実習の実際について報告することを目的とした。 家庭訪問を重視し、理論と看護技術に裏付けられた経験を重ねること、継続した関わりを持つことにより家庭訪問の重要性やアウトリーチでないと届かない層への支援について考えることにつながると考える。
18. 継続して家庭訪問で関わる意味を重視した修士課程での実習2報：1年間の乳児継続家庭訪問実習の振り返り	共	2019年8月	日本地域看護学会第22回学術集会	本人担当部分：共同研究につき、抽出・ページ特定不可能 共同発表者：和泉 京子、岩佐 真也、松井 菜摘、田野 晴子 乳児継続家庭訪問での学生の気づき、学びのプロセスと家庭訪問を受けた対象者の思いを明らかにし、継続した家庭訪問実習を展開することの意義を検討することを目的とした。 学生は戸惑いながらも対象者を理解しようと努め、児の成長発達を的確に把握し、どのような言葉を用いて母親とコミュニケーションをとるべきかを試行錯誤していた。自分の発言や行動に自信が持たず、実習指導者などから助言を受けながら訪問を展開していたことが明らかになった。
19. 継続して家庭訪問で関わる意味を重視した修士課程での実習3報：1年間の高齢者継続家庭訪問実習の振り返り	共	2019年8月	日本地域看護学会第22回学術集会	本人担当部分：共同研究につき、抽出・ページ特定不可能 共同発表者：岩佐 真也、松井 菜摘、和泉 京子、田野 晴子 高齢者継続家庭訪問での学生の気づき、学びのプロセスと家庭訪問を受けた対象者の思いを明らかにし、継続した家庭訪問実習を展開することの意義を検討することを目的とした。 学生は、実習の初めには、対象者の話を「聞く」ことにより思いを理解しようと努めていた。しかし、家庭訪問を重ねていく経過の中で、実習指導者の助言やカンファレンスなどでの他学生の発言により、様々なコミュニケーションスキルを用いて、対象者の話を「聴く」ことができるようになり、それが信頼関係の構築につながるといことを実感していることが明らかとなった。
20. Home visit to	共	2019年6月	ICN Congress	本人担当部分：共同研究につき、抽出・ページ特定不可能 共同発表者名：松井 菜摘、岩佐 真也、和泉 京子、田野 晴子 低所得、未受療、健診未受診の者への保健師による健康づくり支援

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
determine the health status of low-income individuals who had not undergone medical checkup and treatment, and assessment of the effect in Japan			2019 (Singapore)	の家庭訪問を行い、健康と生活の実態把握と家庭訪問後の健診受診、受療状況を評価することを目的に研究を行った。 訪問での支援により必要な受療、特に生活習慣病関連疾患の受療につながることで、重症化・合併症予防、ひいては要介護状態の予防に寄与することが示唆された。 本人担当部分：共同研究につき、抽出・ページ特定不可能 共同発表者：Natsumi Matsui, Kyoko Izumi, Maya Iwasa
21. Public health nurses' understanding of health disparities : results of a complete enumeration of municipal public health nurses in Japan	共	2019年1月	22st East Asian Forum of Nursing Scholars & 12th International Nursing Conference (Singapore)	社会的弱者が多い地域で活動する保健師の社会的弱者に対する健康格差を取り巻く現状に対する認識を明らかにするため、研究を行った。 健康における社会格差を認識した上で保健活動を行うためには、保健師の健康格差に対する理解を促進することが重要であることが明らかとなった。 本人担当部分：共同研究につき、抽出・ページ特定不可能 共同発表者：Maya Iwasa, Kyoko Izumi, Natsumi Matsui
22. 社会的弱者に対する保健師の健康認識と健康の社会格差の視点を包含した保健師活動	共	2018年10月	第77回日本公衆衛生学会総会（福島）	社会的弱者が多い市町村で活動している保健師の社会的弱者に対する健康認識と活動実態を明らかにすることを目的に研究を行った。 健康の社会格差の視点を包含した保健活動の一つとして、特に社会的弱者においては健康の社会格差が生じやすいということを意識しながら日頃の活動を行うことであることが示唆された。 本人担当部分：共同研究につき、抽出・ページ特定不可能 共同発表者：岩佐 真也、本村 純、神原 咲子、海原 律子、和泉 京子、松井 菜摘
23. 特定健診5 年未受診低所得者への家庭訪問での健康支援の評価－3報医療費の状況－	共	2018年10月	第77回日本公衆衛生学会総会（福島）	特定健診未受診で医療機関未受療の者への健康づくり支援の家庭訪問を、特定健診受診状況により評価し、健診未受診者への支援の在り方を検討することを目的に研究を行った。 家庭訪問による健康づくり支援を行うことで、受診を勧奨することができ、受療による一時的な医療費の増加は見られるが、生涯にかかる医療費を削減させることができる可能性が示唆された。 本人担当部分：共同研究につき、抽出・ページ特定不可能 共同発表者：和泉 京子、田平 昌代、舟本 美果、岩佐 真也、松井 菜摘
24. 特定健診5 年未受診低所得者への家庭訪問での健康支援の評価－2報医療機関受診状況－	共	2018年10月	第77回日本公衆衛生学会総会（福島）	特定健診未受診で医療機関未受療の者への健康づくり支援の家庭訪問を、特定健診受診状況により評価し、健診未受診者への支援の在り方を検討することを目的に研究を行った。 過去1年間またはそれ以上の未受療者の中には、生活習慣病の重症化予防のためすぐに受療する必要がある者が見受けられ、家庭訪問による健康づくり支援を行った者の方が生活習慣病関連疾患の受療につながったものの割合が高かったという結果が得られた。より早期に家庭訪問による支援を行い、必要な受療につなげることで、重症化・合併症予防、ひいては要介護状態の予防に寄与することが示唆された。 本人担当部分：共同研究につき、抽出・ページ特定不可能 共同発表者：舟本 美果、田平 昌代、和泉 京子、岩佐 真也、松井 菜摘
25. 特定健診5 年未受診低所得者への家庭訪問での健康支援の評価－1報特定健診受診状況－	共	2018年10月	第77回日本公衆衛生学会総会（福島）	特定健診未受診で医療機関未受療の者への健康づくり支援の家庭訪問を、特定健診受診状況により評価し、健診未受診者への支援の在り方を検討することを目的に研究を行った。 家庭訪問により健康づくり支援を行った者の方がその後の特定健診受診率が有意に高く、また家庭訪問を実施して特定健診の受診につながった者には、有所見者が多かったという結果が得られた。通常の支援では特定健診の受診に結びつかない長期の未受診者への支援としてアウトリーチである家庭訪問の有効性が示唆された。 本人担当部分：共同研究につき、抽出・ページ特定不可能

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
26. Matters important to and difficult for public health nurses working in areas with large numbers of socially vulnerable individuals	共	2018年1月	21st East Asian Forum of Nursing Scholars & 11th International Nursing Conferences (Seoul)	共同発表者：田平 昌代、舟本 美果、和泉 京子、岩佐 真也、松井 菜摘 社会的弱者が多い地域で活動する保健師の社会的弱者に対する健康認識と活動実態を明らかにするため、研究を行った。 健康問題の多様化と健康格差の拡大に伴い、P保健師は対象者の思いや言葉、そして家族全体を支援することを重要と考えていることが分かった。また、虐待事例や訪問を拒否する事例への対応に難しさを感じており、他機関との連携の必要性が示唆された。 本人担当部分：共同研究につき、抽出・ページ特定不可能 共同発表者：Maya Iwasa, Jun Motomura, Sakiko Kanbara, Ritsuko Kaibara, Kyoko Izumi, Natsumi Matsui
27. Home visits for determining health status of low-income individuals who have not undergone medical checkups or treatment		2018年1月	21st East Asian Forum of Nursing Scholars & 11th International Nursing Conferences (Seoul)	低所得で健診未受診で医療機関未受療の者の健康の実態をアウトリーチ活動である保健師の家庭訪問により明らかにすることを目的に研究を行った。 特に、経済的ゆとりのない者に対して、早期治療により治療費が少なくなることや安価なジェネリック薬を選択できることなどを伝え、健康づくりの支援を行っていく必要性が示唆された。 本人担当部分：共同研究につき、抽出・ページ特定不可能 共同発表者：Kyoko Izumi, Maya Iwasa, Ritsuko Kaibara, Natsumi Matsui
28. 社会的弱者の健康格差についての保健師の認識	共	2018年1月	第6回日本公衆衛生看護学会（大阪）	社会的弱者が多い地域で活動している保健師の健康格差に関する認識の特徴を明らかにすることを目的に研究を行った。 健康格差に対する特徴的な認識として、社会的弱者は健康への意識が低いと捉えており、日々の活動を通し、食事状況の悪さや行動変容を促すことの難しさを感じながらも、関係機関とともに関わり、社会的弱者とつながることを大切にしていることが明らかとなった。 本人担当部分：共同研究につき、抽出・ページ特定不可能 共同発表者：岩佐 真也、本村 純、神原 咲子、海原 律子、和泉 京子、松井 菜摘
29. 特定健診5年未受診者への家庭訪問実施回数と特定健診受診状況	共	2017年11月	第76回日本公衆衛生学会総会（鹿児島）	特定健診未受診で未受療である者へ、健康づくり支援の家庭訪問を実施し、実施回数と訪問後の健診受診状況を明らかにすることにより、健診未受診者への支援のあり方を検討することを目的として研究を行った。長期間健診や受療につながっていない者へは1回のみでの訪問にとどまらず、継続的に支援する必要性が示唆された。 本人担当部分：共同研究につき、抽出・ページ特定不可能 共同発表者：髙谷裕実、守田佳織、和泉京子、岩佐真也、松井菜摘
30. 幼児後期の子どもを持つ父母における養育態度とその要因		2012年3月	第27回日本看護研究学会近畿地方学会術集会（大阪）	地域で生活する幼児後期の子どもを持つ父母の養育態度と、その属性や相談による違いを明らかにすることを目的に、父母の養育態度の組み合わせを4つに分類し、背景要因による関連を分析した。子どもの数や夫婦間の相談、祖父母の同居等が父母の養育態度に影響を及ぼしている可能性があると考えられる。 本人担当部分：共同研究につき、抽出・ページ特定不可能（アンケート回収後の分析および抄録作成） 共同発表者：山本（松井）菜摘、藤原千恵子
31. 幼児後期の子どもを持つ親におけるしつけへの実際の関わり		2011年8月	第42回日本看護学会地域看護（高松）	幼児後期の子どもを持つ親のしつけに対する実際の関わりと、その属性および相談状況による違いを明らかにするため、地域で生活する幼児後期の子どもを持つ親を対象として質問紙調査を行った。しつけへの実際の関わりは「決まりを守ること」「人と関わること」「規則正しく生活すること」「学ぶこと」の4因子構成が妥当であり、父のしつけへの実際の関わりには子どもの年齢が、母のしつけへの実際の関わりには母の年齢、就業の有無および子どもの年齢が関連していることが示唆された。 本人担当部分：共同研究につき、抽出・ページ特定不可能（アンケート回収後の分析および抄録作成） 共同発表者：山本（松井）菜摘、加藤多樹郎、藤原千恵子
32. 幼児後期の子どもを持つ親のしつけに対する意識と実際の関		2009年10月	第56回日本小児保健学会（大阪）	地域で生活する3～6歳の子どもを持つ母親を対象として、養育態度としつけの必要性および実際の関わり、また様々な背景要因によるそれらの違いを明らかにすることを目的に質問紙調査を行った。母親

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
<p>わり —母親の属性・しつけ体験による認識の差異—</p> <p>33. 病棟の違いによる入院児のきょうだい支援に対する看護師の認識と実践の差異</p> <p>34. 小児の入院と母親の付き添いがきょうだいにおよぼす影響～きょうだいの情緒と行動の問題の程度と前向きな変化・成長の関係～</p> <p>35. 小児の入院と母親の付き添いによる、きょうだいの肯定的な変化の程度と属性・背景因子との関連性</p> <p>36. 入院児のきょうだいの人格的成長尺度の作成</p>		<p>2009年9月</p> <p>2009年9月</p> <p>2009年9月</p> <p>2009年9月</p>	<p>第40回日本看護学会小児看護（高知）</p> <p>第40回日本看護学会小児看護（高知）</p> <p>第16回日本家族看護学会（岐阜）</p> <p>第16回日本家族看護学会（高山）</p>	<p>は愛情豊かに適度な距離を保ちつつ、親としての責任を持って育児に取り組み、基本的な生活習慣よりも社会的な生活習慣を大切にしている傾向が見られた。配偶者や親と相談することで母親が余裕を持ってしつけができ、また親から受けたしつけが自分の子どもに対するしつけに反映されていることが示された。</p> <p>本人担当部分：共同研究につき、抽出・ページ特定不可能 共同発表者：山本（松井）菜摘、西川麻菜美、加藤多樹郎、藤原千恵子</p> <p>小児が入院する病棟に勤務する看護師を対象に、病棟により入院児のきょうだい支援に対する認識と実践に差異があるかを分析した。きょうだい支援に関する情報収集や働きかけは小児病棟と混合病棟のどちらでも高く認識して実践されていること、院内規則や設備によってきょうだい支援の違いが生じる可能性があることが示唆された。</p> <p>本人担当部分：共同研究につき、抽出・ページ特定不可能 共同発表者：武内紗千、河上智香、新家一輝、倉橋理香、泉美香、山田晃子、山本（松井）菜摘、石井京子、藤原千恵子</p> <p>母親の属性および小児の入院と母親の付き添いによって生じるきょうだいの情緒・行動の問題の程度と、前向きな変化・成長の関係を明らかにすることを目的として、小児の入院に終日付き添っている母親を対象に質問紙調査を行った。母親の年齢や不安の程度、きょうだいの年齢や性別に配慮したきょうだい支援の必要性が示された。</p> <p>本人担当部分：共同研究につき、抽出・ページ特定不可能 共同発表者：倉橋理香、新家一輝、泉美香、山田晃子、山本（松井）菜摘、武内紗千、河上智香、石井京子、藤原千恵子</p> <p>小児の入院と母親の付き添いによる、きょうだいの肯定的な変化の程度と、属性・背景因子との関連性を分析するため、小児の入院に終日付き添っている母親を対象に質問紙調査を行った。きょうだいは頑張り過ぎている場合に肯定的な変化を示す可能性があるため、きょうだいが母親に十分に関わる機会が増えるよう配慮することが重要であると考えられる。</p> <p>本人担当部分：共同研究につき、抽出・ページ特定不可能 共同発表者：山田晃子、新家一輝、泉美香、倉橋理香、山本（松井）菜摘、武内紗千、河上智香、石井京子、藤原千恵子</p> <p>小児の入院と母親の付き添いにより生じる、入院児のきょうだいの肯定的な変化の程度を測定している尺度を作成することを目的に、小児の入院に終日付き添っている母親を対象に質問紙調査を行った。愛他的行動因子、情緒・社会的スキルの発達因子、セルフコントロール因子の3因子から成る「入院児のきょうだいの人格的成長尺度」の有用性が示された。</p> <p>本人担当部分：共同研究につき、抽出・ページ特定不可能 共同発表者：新家一輝、藤原千恵子、石井京子、河上智香、泉美香、山田晃子、倉橋理香、武内紗千、山本（松井）菜摘</p>
3. 総説				
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
<p>1. 2020 年度教育体制委員会企画報告「大学院化を予定している会員校の意見交換会」</p> <p>2. 2020 年度教育体制委員会企画教員研修報告 保健師教育における大学院カリキュラムモデル(全保教版)</p>	<p>共</p> <p>共</p>	<p>2021年5月</p> <p>2021年5月</p>	<p>保健師教育, 5(1), pp.32-36</p> <p>保健師教育, 5(1), pp.27-31</p>	<p>共著者：臺 有桂、和泉 京子、松井 菜摘、佐藤 千賀子、渡井 いずみ、西出 りつ子、松尾 和枝、土井 有羽子</p> <p>共著者：松井 菜摘、和泉 京子、臺 有桂、西出 りつ子、佐藤 千賀子、松尾 和枝、渡井 いずみ、土井 有羽子</p>

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
2020)一作成の背景とカリキュラムの実際—				
3. 保健師教育大学院化に向けたステップバイステップ支援Q&A集2020	共	2020年11月	全国保健師教育機関協議会	共著者：臺有桂、西出りつ子、和泉京子、佐藤千賀子、松井菜摘
4. 保健師教育における大学院カリキュラムモデル	共	2020年6月	全国保健師教育機関協議会	共著者：和泉京子、赤星琴美、麻原きよみ、大森純子、岸恵美子、佐伯和子、田口敦子、松井菜摘
6. 研究費の取得状況				
1. 思春期の子と親のHPVワクチン躊躇とワクチン接種意思決定支援方略の開発と効果評価	共	2024年4月	科学研究費補助金（基盤研究C）令和6年度～令和9年度	思春期の子と親の定期予防接種であるHPVワクチン接種行動の現状と課題を明らかにする。明らかになった実態をもとにHPVワクチン接種の意思決定支援プログラムを開発し、その効果を評価する。 助成金：442万円 研究代表者：枝澤真紀 分担研究者：和泉京子、金谷志子、松井菜摘
2. 産後の抑うつ症状に対する産婦の気づきと対処行動に向けた支援方略の開発	単	2023年4月	科学研究費補助金（若手研究）令和5年度～平成8年度	抑うつ症状に対する産婦の気づきと対処行動の実際、さらに産後うつ傾向と関連を明らかにするため、産後にうつ傾向が見られた産婦、保健師を対象とした面接調査、および産後4か月の産婦全数を対象とした自記式質問紙調査を行う。 助成金：325万円 研究代表者：松井菜摘
3. フレイル予防のための住民主導型地域活動の持続可能な活動モデルの開発	共	2021年4月	科学研究費補助金（基盤研究C）令和3年度～令和7年度	フレイル予防のための住民主導型地域活動の持続可能な活動モデルを開発することが目的である。研究計画は5か年計画で、第1段階で地域活動の実態把握と課題抽出、第2段階でプログラムの考案、第3段階でプログラムによる介入と効果の検証し、活動モデルを完成させる計画である。 助成金：416万円 研究代表者：金谷志子 分担研究者：和泉京子、川井多加子、松井菜摘、枝澤真紀
4. 家族介護者への生活習慣病・介護予防のための健康把握とKDB システムによる支援評価	共	2018年4月	科学研究費補助金（基盤研究C）平成30年度～平成34年度	①在宅介護を担う家族介護者の身体心理社会的健康状態、生活状況及び健康行動の実態を明らかにし、②明らかになった健康や生活の実態より家族介護者への生活習慣病予防・介護予防の健康支援を検討する、③健康や生活の実態に応じた生活習慣病予防・介護予防の健康支援をアウトリーチ活動である家庭訪問により行う、④家庭訪問にて実施した生活習慣の見直しや特定健診受診勧奨、医療受療勧奨の健康支援について、アウトカムを特定健診受診、医療機関受診、生活習慣病の発症の有無等として国保データベースシステムにて評価し、⑤家族介護者への支援方略を検討することを目的として研究を行っている。 助成金：330万円 研究代表者：和泉京子 分担研究者：川井多加子、上野昌江、阿曾洋子、岩佐真也、松井菜摘、内藤義彦
5. 高齢初妊婦および高齢初産婦が体験する困りごとに関する支援方略の開発	単	2018年4月	武庫川女子大学科学研究費補助金採択研究助成金	高齢初産婦の妊娠期の状況や育児の実態、困りごとを明らかにし、高齢初産婦の特徴を明確にすることにより、高齢初妊婦および高齢初産婦への具体的な支援方略を検討することを目的として、研究を行っている。 助成金：10万円 研究代表者：松井菜摘
6. 高齢初妊婦および高齢初産婦が体験する困りごとに関する支援方略の開発	単	2018年4月	科学研究費補助金（若手研究）平成30年度～平成32年度	高齢初産婦の妊娠期の状況や育児の実態、困りごとを明らかにし、高齢初産婦の特徴を明確にすることにより、高齢初妊婦および高齢初産婦への具体的な支援方略を検討することを目的として、研究を行っている。 助成金：150万円 研究代表者：松井菜摘
7. 低所得未受療国保健診未受診者の家庭訪	共	2017年4月	科学研究費補助金（基盤研究C）平	国保加入者における低所得で未受療者に対し家庭訪問を行い、身体心理社会的健康状態および生活状況、健康行動の実態を明らかに

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
6. 研究費の取得状況				
問での実態把握とKDBシステムによる訪問評価			成27年度～平成29年度	し、訪問による支援の効果をKDBにて評価する。 助成金：370万円 研究代表者 和泉京子 分担研究者：岩佐真也、海原律子、阿曾洋子、上野昌江、内藤義彦、川井太加子、松井菜摘
8. 健康の社会格差の視点を包含した社会的弱者に対する保健師活動支援方略の検討	共	2017年4月	科学研究費補助金（基盤研究C）平成28年度～平成30年度	保健師の社会的弱者の健康についての認識と社会的弱者への保健活動の必要性についての認識、実際の活動内容の現状を明らかにし、健康の社会格差の視点を包含した保健師の活動支援方略を検討することを目的として、研究を行っている。 助成金：380万円 研究代表者：岩佐真也 分担研究者：和泉京子、大野ゆう子、神原咲子、海原律子、本村純、松井菜摘

学会及び社会における活動等

年月日	事項
1. 2020年～現在に至る	日本母性衛生学会
2. 2017年～現在に至る	日本公衆衛生看護学会
3. 2016年～現在に至る	日本地域看護学会
4. 2016年～現在に至る	日本公衆衛生学会
5. 2011年～現在に至る	日本看護研究学会
6. 2009年～現在に至る	日本看護協会